

英国イートン・カレッジの聖 チャリティコンサートを開催

各界に多くの著名人を輩出する英国一のパブリックスクール、イートン・カレッジ。多数の英国首相も輩出、世界的に知られる名門校です。そのイートン・カレッジが行うサマースクールに昨年、高校から7人が参加したことがきっかけとなり、3月28日にイートン・カレッジ聖歌隊を迎えてコンサートを開催しました。

今回はサマースクールに参加した生徒たちの感想や、イートン・カレッジの生徒を迎えるために金城学院高校の生徒たちが行った準備の様子、ホストファミリーとの交流などをご紹介します。



昨年夏に7人の高校生がイートンサマースクールへ

イートン・カレッジ(以下イートン校)は1440年にヘンリー6世によって創設された、イギリスの男子全寮制パブリックスクールです。ここでは毎年夏休みに「サマースクール」を開校、国外から多くの学校・生徒たちが参加しています。昨年は縁あって金城学院高校も参加し、7月20日から8月9日まで7人がサマースクールを体験しました。

サマースクールでは英語学習をはじめイギリスの歴史文化を学ぶさま



東日本大震災復興支援チャリティコンサートのパンフレットと生徒会が制作したコンサートのチケット



イートン校の先生方と徳川園にて



お話を伺った沖崎先生(左)と柳瀬先生(右)

2012年7月20日から20日間、イートンサマースクールに参加した生徒たち。授業やアクティビティなどで充実した日々を過ごしました。



歌隊が来校



ざまなアクティビティも行われます。生徒たちはイギリスの名所として知られるバッキンガム宮殿や大英博物館をはじめ、ストーンヘンジなどの遺跡やコッツウォルズを見学。親切な大学生のスタッフとも仲良くなり、楽しく有意義な日々を過ごしました。また普段は入ることのできないイートン校で生活できたこと、勉強できたことは大変貴重な経験となったようです。「プログラム内容が多様性に富み充実していた」「イギリスの歴史に触れることができ、名所をたくさん見学することができた」などの感想のほか、「ゲームやグループ活動を取り入れた授業で楽しく英語を学べ、英語力が向上した」「他校の生徒と交わることで刺激を受けた」「レベルの高い授業を受けることができた」などの声も。生徒たちがますます英語への学習意欲を高める結果となりました。

生徒会と参加者が中心となりお出迎えの準備を行う

このサマースクール参加をきっかけに、昨年10月にサマースクールの

責任者の方が金城学院を訪問。その際、今年3月にイートン・カレッジ聖歌隊（以下イートン聖歌隊）が東日本大震災支援チャリティ・コンサートのため来日する予定であるという話がありました。そして「ぜひ金城学院でもコンサートを行いたい」というイートン校から申し出がありました。金城学院では、以前から震災のチャリティ活動を積極的に行っていたのでその主旨に賛同。3月28日に開催することが決まり、お出迎えの準備が始まりました。

まずはイートン聖歌隊の生徒たちを受け入れてくれるホストファミリーを募集。多くのご家族からたくさんのご厚意をいただき、無事受け入れ先を決めることができました。コンサートが行われる栄光館の音響設備チェックも行いました。美術部の生徒たちはチケットのデザインを描いてくれました。そして生徒会のメンバーとイートンサマースクールに参加した生徒が中心となり、生徒たちみんな準備を進めました。

広報活動をする前に生徒たちは、な

ゼイトン聖歌隊がここでコンサートを行うのかを考えました。生徒会を担当する宗教主事の沖崎先生は「生徒たちは、自分たちが行ってきたチャリティ活動とイートン聖歌隊が行うコンサートの中心には、同じ『愛』があると考えました」と話します。生徒たちは講堂でスライドを使い、イートン校や企画者側の思いなどをプレゼンテーションし、春休みの中、多くの金城学院生にコンサートを聞きに来てもらえるように全校生徒に伝えました。熱意は伝わり多くの生徒たちがチケットを求めました。

さらに滞在中の3日間のプログラムについても議論を重ね、いよいよ当日を迎えることとなったのです。



サマースクールのスタッフとの再会を喜ぶイートンサマースクールに参加した生徒たち

自然に感動が生まれるようにと 対面式で楽しい演出を考案

イートン聖歌隊が来校した3月27日は、ホストファミリーとの対面のセレモニーが行われました。イートン校の関係者や先生方は昨年サマースクールに参加した金城学院生たちのことを覚えていてくれて、感謝の対面も。長旅の後にも関わらず、お互いに笑顔で挨拶を交わしました。

また「形だけの対面式ではなく自然に感動が生まれるセレモニーにしたい」と生徒会とサマースクール参加者が演出を考案。イートン・カレッジの生徒(以下イートン生)たちの座席に、ホストシスターの特徴を書いたカードを配置。そのカードを見ながらホストシスターを当ててもらうように工夫しました。ゲームのような楽しい演出、イートン生たちとホストファミリーも和やかなムードで打ち解けることができました。

イートン生たちは各ホームステイ先でも大歓迎を受けたようです。さまざまな名所を訪れたり、日本の食事を楽しんだり、あるいは書道など日本の伝統文化に親しんだりとそれぞれに楽しい時間を過ごしました。

会場に響き渡る 美しい歌声に感動

コンサート当日はあいにくの雨にもかかわらず、早い時間から多くの人々が続々と来場。栄光館はほぼ満席の状態で開催しました。イートン聖歌隊はコンサート前に熱心なリハーサルを実施、今回のコンサートに対する意気込みが伺えました。

はじめに金城学院の中学、高校グリークラブが出演し、合唱を披露。最初は高校のグリークラブだけの予定でしたが、中学のグリークラブもぜひ歌

いたいということで、みんなで歌うことに。舞台だけではなく2階の通路にも生徒たちが並び、会場中に美しい歌声を響かせました。「栄光館の神様の愛が満ち溢れるように、その気持ちがイートン校の人々のみならず、会場の

人々全員にも伝わったと思います」と沖崎先生はいます。またイートン聖歌隊も2階から鑑賞、グリーの歌声に大きな拍手を送りました。本来ならコンサートの前に他の合唱や演奏を鑑賞することはないのですが、この時は皆さん一生懸命聞いてくれました。

その後はイートン聖歌隊が神聖な赤い衣裳に身を包み舞台に登場、いよいよコンサートが始まりました。聖歌隊は大聖堂やチャペル聖歌隊の出身者が多く、数多くの志願者の中から選ばれた生徒たちで構成され、世界各地でコンサートを行っています。聖歌隊はCantate Domino、My Beloved Spakeなどイギリスの伝統的な宗教曲を披露。日本の曲である「荒城の月」「赤とんぼ」「故郷」も歌われました。郷愁をそそる美しい歌声が会場中に響き渡り、みんなが感動。中には被災地のことを思い、目に涙を浮かべる生徒もいました。

会場には事前にイートン聖歌隊へのメッセージを募った「ココロポスト」を掲示。「来てくれてありがとう」「心から歓迎します」などたくさんのメッセージが寄せられました。



ホストファミリーとの再会を喜ぶイートンサマースクールに参加した生徒たち



2階の通路も使って中学、高校のグリークラブが「神をほめたたえよ」などを熱唱

また募金ボックスも併設しコンサートの休憩のときに、募金ボックスの前に金城学院生の長い列ができました。「人は、何かを得るためには並びますが、自分の何かを捧げるために列を作



イートン聖歌隊の1人ひとりに花が手渡され、会場は大きな拍手に包まれた



「ココロポスト」の前には行列ができ、多くの方からメッセージや募金をいただいた

ることはほとんどないことです。しかし、このチャリティコンサートを通して、神様の愛、イートン生の愛、そして金城学院生の愛とが響き合ったのでしょ。募金ボックスの前には、係りの生徒が募金を呼びかける必要もなく、自然と途切れのない笑顔の列ができたのです。これこそ、目に見える愛の列ということが出来ます」と沖崎先生は話します。

それぞれの心に 感動を残した3日間

コンサートの後も生徒会とサマースクール参加者らによる感謝の会が行われました。まずは金城学院生の代表が英語で感謝の言葉をスピーチ。その後は日本赤十字社名古屋支店の方に、イートン校と金城学院生から直接寄付金が手渡されました。今回はイートン校から11万9325円(当日の募金)、学院から18万円が寄付されました。

懇親会でもまた、生徒たちによるサプライズの演出が行われました。3つのテーブルに分かれてそれぞれにイートン生やホストシスターらと歓談が行われましたが、その各テーブルで「金城学院をどう思うか?」「日本についてどう思うか?」「東日本大震災について思うことは?」などそれぞれに与えられた質問をイートン生たちに投げかけ、リラックスしたムードの中で、本音でその質問に答えてもらいました。

その後、こうした『生の声』を生徒たちが発表。「金城学院について、彼はこ



懇親会では日本赤十字社に、金城学院とイートン生から直接募金が手渡される



懇親会でコミュニケーションを深め、すっかり仲良くなった生徒たち

んなことを感じているそうです」「日本のこういうところがいいと思っていて、ここが不思議だと思っているそうです」など、生徒たちに発表されたイートン生はみんな驚き、中には思わず立ち上がって「さっきの話をこの場でいわれるとは、本当に驚いたよ!」という生徒も。高校生らしい、楽しい演出に懇親会の雰囲気が一気に和やかになり、大変盛り上がりました。懇親会の最後には指揮者のジョンソン氏が感謝の言葉をのべ、生徒会から「ココロポスト」の冊子が手渡されました。中に書かれていたメッセージに、イートン生もみな感動していたようです。

最終日の朝は生徒たちやホストファミリーが集まって涙のお別れ。生徒会メンバーの心のかもった歓迎、またホストファミリーの優しさ、温かさ楽しい日々を過ごすことができたイートン生たちもみな別れを惜しみました。イートン生を受け入れた家庭の生徒は「舞台上で美しい歌を歌っていた男の子が、我が家の一員のようにくつろぐ姿に、とても親近感を覚えました」と話し、「文化の違いも知り、あらためて世界の広さを知りました」とも。金城学院生たち、そしてイートン生のそれぞれに感動をもたらした3日間となりました。



再会を誓い、全員で最後までお送りした